TEXT: DAN TAQUASUGUI
GRAPHIX: HEIQUITI HARATA

CLUB IRREGULARS Nº7

春の嵐と心の旅

*

春の嵐がまた私の心の中にやってきました。最近、私の周囲にもいよいよ本格的なヤキが回りはじめており、不況は私たちのようなチンピラのところに最初に回ってくるものだと、しみじみ感じております。もうどこにも、なにもありません。部屋から一切外へ出ず、体重は四十二キロに減り、血圧は下がり、睡眠時間を一日平均十時間とって、この極端な精神衰弱状態に耐えているところへ、病院に勤める知人から再三再四入院勧誘のお電話があります。頭は錯乱し、腹は減り、猫は部屋中を駆けずり回る狂乱状態の中で「はいはいはいはい、そのうち行きますからね頑張ってくださいね」などと生返事をする今日この頃でございます。

01

*

私にはもう生きている実感などどこにもないのです。自分と他人の区別がつかない状態が板に付いてしまい、起きていても夢を見ているような心地でひたすら食べ物のことを思い浮かべています。髭は伸び、身体中に垢がたまりました。何も考えられず、猫と一緒に床で寝たりしています。突然頭が重くなり、あまり面白くない駄洒落を思いついてへらへら笑っています。そうこうしているうちに部屋代と借金の支払い日が迫り、返済できないので高利貸しから借金をすると、外はもう夜です。

02

*

風の音がひゅうひゅう耳に突き刺さるように感じ、また自殺衝動が訪れます。目に見えるものが意味を失ってただの形にしか見えず、胃には次第に黒い幕が降りはじめて、東京にも春がやってきました。蒲団にもぐり込んで震えているうちにいつしか眠ってしまい、悪夢にうなされてがっくりと疲れ、やがて朝が訪れると低血圧状態で猛烈に腹が減っています。

03

*

で、私はまだ自分が生きていることを確認し

ます。

　なにか食べなくてはいけないと思い、冷蔵庫から魚を取り出して鱗を削ぎ落とします。友人からの手紙によると、織田信長はとうの昔に失脚しているとのことです。窓の外

04

には桜が咲いて、今年も笑いながら歩く人たちの生活が路上の水溜まりに滲み込んでいくようです。旅の心もすっかり忘れてしまった頃に、私は故郷の野山を駆けめぐることを思い出して涙を流すこともありました。散歩と週末の競馬だけが人生の楽しみとなって、社

*

会はどんどん私から遠ざかっていきます。嘔吐と暴食を繰り返し、鏡の中に悪魔の姿を見て、絶望の淵に立つ孤独と真紅に色どられた

05

躁鬱を呪う言葉を吐き続けます。鍋ややかんは路傍の石にも似て何も語らず、黒い緞帳は私の人間芝居を厚く覆い尽くします。猫がにゃんと鳴き、鴉はかあと鳴いて陰鬱な夕陽がこの世を焼きつくし、やがて来る闇の大王の囁きに耳を傾けるとき、私は一匹の野獣となってご飯を食べます。きょうのおかずはさん

*

まのかば焼き。昨日よりも不幸の度合いが増して、憔悴がにじり寄るように私に微笑みかけている。自殺すらできない不幸な私。私はもうとうの昔に死んでいるのかも知れない。

06

病院は暗黒の遊園地、そして社会は明るい墓場のように感じられます。春はまぼろし、淡い光の中を大勢の亡者が笑いながら走って行く。硝子のように透き通った蛇がにやにや笑いながら私にすり寄ってきて、「お前ももうお

*

しまいだね」と囁きます。水道管の中を這いずりながら前に進む私。ああバナナが食べたい。鳥の蒸し焼きも食べたい。病院では大勢の上海の老人が壷に入った紫の液体を柄杓ですくって水浴びをしています。私にはわから

07

ない中国語で、しきりに呪いの言葉を呟きながら。ああ蕨餅が食べたい。葛切りでもいい。そして突然の頭痛。私は床に伏せって暗黒の宇宙を想い、大理石の思念にすべてを集中しました。猫が五万匹死んでいます。人間も八

*

人死んでいます。空からはもう九十日間も針の雨が降り注ぎ、地面は血の海となってどろどろに覆いつくされました。神も仏もあるものか。この世の地獄を思い知れ。お前なんか人間じゃない。二度と生まれてくるな。八百

08

年間いじめてやる。目が醒めると妻が台所で野菜を刻んでいました。妻は悪魔の化身でした。私を監視するために悪魔が使わした化け物でした。気圧が下がり、脳が圧迫され、やがて雨が降りはじめました。借金の支払いが

*

迫り、食べ物はなく、猫は鳴き叫び、激しい絶望と吐き気が私を襲います。関節が痛み、頭は混乱し、咽喉は乾き、どんよりと垂れこめる雲が私の精神を錯乱するのです。春の嵐は、まだ私の心の中から出て行こうとはしません。

09

電話妄想男 Q^2地獄漫遊記

松沢呉一

vol.16

三月一日(日)

渋谷のCDぴあにて、セカンド・アルバムをリリースしたばかりの葛生千夏を迎えてのトーク・イベントの進行役をやる。

葛生さんは最近引越しして、振り返ると台所がある、理想の仕事場を作ることが出来たと嬉しそう。作品には生活感を全く匂わせないが、内実としては自己と生活と作品を完全に一致させたいとの思いがあるようなのだ。

最近葛生さんは、漫画家の紫堂恭子のイメージCDを手掛けたのだが、それを聴いた紫堂さんの妹が「この人は15歳くらいの時に負った傷を引きずっているんじゃないか」と見事看破できたのは、葛生さんの音楽の、そのようなあり方と関係しているのかもしれない。

三月二日(月)

湾岸スタジオで「国際アヴァンギャルド会議」の録音。これは鈴木慶一、博文兄弟を議長とし「アヴァンギャルドを行う場であり、それを音に変換し、CD化する組織である」(国際アヴァンギャルド宣言より)。そのCDに近江商法会も参加することとなったのだ。

各自が一定の音でホーミり、息つぎ毎に任意の音程に音を変えるという簡単なルールでベーシックを作り、それにさらに音をかぶせるという作業。録音してみると、我々の音感の悪さが露呈したりもするが、時折思わぬハーモニーが生まれたりもする。音楽的な素養や知識ではない、快楽の生理が誰にでも備わっているんだと思う。倍音がからみあって予想できないうねりを作るのがまた面白い。と楽しんでいるうちに5時間もかかり、鈴木兄弟に迷惑をかける(このオムニバスCDはメトロトロン・レコードより発売。限定盤なのでお早めに。と宣伝を入れることでお詫びに替えさせていただこう)。

三月四日(水)

Q^2で知り合った某大企業のOL、S子ちゃんに、うちの電話番号を教えたら、以来よく電話をかけてくるようになった。S子ちゃんはすげえかわいい声で性格もよい。一昨日辞令があって来月転勤することになったというので、遂に禁を破り、Q^2で知り合った子と会うという初の体験。

いざ会ったら、あとかたもなく我が妄想は崩れ落ちる。しまった、会うんじゃなかった。ルックスへの期待などたいしてないつもりではあったが、それでも頭の中には極上の女が既に妄想されていたことを私は知ったのだ。

彼女が人知を越えたとてつもないルックスをしているということでは決してなく、上りつめた妄想にはどんな現実もかなわないということであり、それはあちらも同様だろう。

不思議なことに電話とは声や性格まで印象が違う。会う前は「転勤を拒否して東京にいなさい」と言おうかとも思っていたが、「転勤はいろいろな場所を知ることができるよ」と転勤を強く勧める。

飯を食いながら2時間ばかり過ごすが、電話のようには話が盛り上がらないまま別れる。

このことから「聴覚によるイメージの拡大」「視覚による聴覚への干渉」などのテーマについて、本一冊書けるくらいの考察をする。転んでもタダでは起きない。

三月七日(土)

渋谷でえのきどいちろうの結婚パーティ。ここでQ^2仲間の編集者から新情報を聞く。その番号はテレフォン・セックス専門らしいのだが、電話に出る女の子がバイトではなく素人さんらしいのだ。このままでは破産しかねないと、自宅の電話を奥深くにしまいこんで使えないようにしたのだが、そんな話を聞いては我慢できん。二次会に行くのをやめ、事務所の電話をはずして家に持って帰って電話するが、話中でつながらず。新郎新婦には申し訳なかったが、つながらなかったことでお詫びに替えさせていただく。

三月八日(日)

吉祥寺マンダラIIに出演。「へぼ詩人の蜂蜜酒」というバンドのゲストに近江商法会が呼ばれたのであるが、出来悪し。「我々はおごっていた」と、私ほか数名は深く反省。春に予定していた、一般人を集めての長野での合宿をやめ、我々自身が一から出直す旅に出ることにする。

三月十二日(木)

噂の真相掲載の「JICC出版局の最近社内事情」なる匿名座談会に笑う。宝島編集者のイニシャルで誰かわからないのがあるのでJICCの知合いに電話するが、私が座談会参加者ではないかとの疑いをかけられる。オレじゃないってば。私だったら、どうして電話で問合せたりしようか。いや、問合せたのは、私ではないことを偽装するためかもしれない。などと自分で疑うことはないよな。

電話のあと引続き「噂の真相」を読んでいたら「最近若手文化人事情」という記事が目についた。こちらは中森明夫、いとうせいこう、中尊寺ゆつこ、木村和久などをチクチクやっている。この記事でもまた疑われそうだ。

三月十三日(金)

長井さんと記念写真(16年ぶりの再会!?)

案の定、とある「若手文化人」に二股かけられたと噂の真相に書かれている女性より電話があり、「情報を流したのはアンタでしょ」と難詰される。確かにあの内容からすると、私が情報提供者と思えなくはない。そうだ、そうに違いない。といった具合に、取り調べ官に追及されているうち、本当に自分がやったんじゃないかと思い始め、やがて自白する。これが冤罪が作られるメカニズムである。でも本当に関係ないんだってば。

三月十四日(土)

久々に渋谷名物ムルギのカレーを食いに行く。ムルギのジイちゃんもバアちゃんも健在でホッとする。でもいよいよヨボヨボになっていて、ジイちゃんの方は言葉もおぼつかず、ヨダレをたらしているし、歩き方も危なっかしい。もしかすると死んでいることに気づいていないだけじゃないかとさえ思えるほどだ。

もし二人が亡くなったら、このカレーはもう食えないのかなと考えてシンミリした気分になる。少しくらいならカレーの中にヨダレたらしてもいいので長生きして欲しい。もう死んでいるなら、ずっと気づかないで欲しい。

三月二十五日(水)

朝丘美嶺と白石ひとみの二大AV娘をインタビューするためにAV監督鬼沢修二氏の事務所へ。ドアを開けるや否や鬼沢氏に怒鳴られる。何がなんだかわからない。これについては大人の事情があったことが、あとでわかったが、この時点では「やっぱAVというのはヤーサンがやってるんだ」と思い込む。

朝岡美嶺、白石ひとみは、さすがエエ女だが、ヤクザかもしれない鬼沢氏が背後にいるので、下手なことを言うと指をなくすことになるかもしれないと思うと調子が出ない。

終わったあと、鬼沢氏に「突っ込みが足りないぞ」と指摘される。アンタがいるからビビッたんじゃないか。でも、鬼沢さんて本当はいい人だったのである。先に言ってよ。

夜、シティロード(以下CR)に届いた封書の束を開ける。CRに2年間連載していた日記が終わってしまったので、限定50部の松沢日記専門誌「月刊日記」を創刊することにし、CR誌上で告知をしたのだ。

首都圏の情報誌なのに全国から問合せが来ている。感激したっす。感激はしたが、まだ出せるメドはないっす。なんとか5月中旬には創刊予定したいと思う(受付は本日で終了したので、これ以上送っても無駄です)。

三月二十六日(木)

たまの知久君にツノゼミに関するインタビュー。まさか僅か4、5ミリの小さな虫とは思っておらず、知久君は標本を差し出して「顔がかわいいでしょ」と言うのだが、どこが顔だか、よく見えんぞ。

この研究者は日本にほとんどいないので、まだ新種発見の余地はあるそうだ。知久君も、ツノゼミが産卵すると言われている種類以外の木で産卵しているのを見つけていて、これが確認されれば、ツノゼミ界を震撼させる一大新事実になるかもしれない。

三月二十七日(金)

長井勝一氏の会長就任パーティ。大盛況。司会の高信太郎氏、赤瀬川原平氏、水木しげる氏、上野昂志氏、林静一氏、永島慎二氏、淀川さんぽ氏、鴨沢祐二氏、勝又進氏、村野守美氏などなどのお姿を一同に拝見できるとは感無量。村野氏の短編で、悪戯電話をする少年の話をふと思い出し、様々な記憶蘇り胸詰まり目頭熱くなり、ついでにQ^2したくなる。

こんな機会は滅多にないのだから、ちょっとでもお話ししたいところだが、そう考えただけで硬直してしまうので、手頃に話しやすい杉作さんとオナニーについて語り合う。オナニー投資額の調査をやると面白いのではないかと杉作さん。自慰NP調査である。1ヵ月間に使っている総計と一回当たりの単価を出すと相当個性が出そうだ。私はQ^2のせいで高額自瀆者だが、理想は愛人を囲えるくらいの金額を毎月オナニーに使うことだな。

パーティのあと、16年ぶりの(あちらはもちろん覚えてはいないわけだが)長井さんと一緒に記念写真。一生の記念。

二次会に行けば、もっと皆さんと気楽に話せるのではないかとも思ったのだが、どうにも気後れしてしまってすぐに帰る。Q^2するためじゃないっすよ。結果としてはしたけど。

Q^2のあとKと電話。宅×小峯問題について、Kの知合いのMという女の告白が近々週刊ポストに出るという。小峯に対する嫌がらせは、宅八郎に命令された彼女が実行、それに耐えかねたMは小峯にチクったらしいのだが、小峯はやっぱりイヤなヤツで、週刊ポストの記者というのが輪をかけてイヤなヤツで、ほとほと彼女はまいっているというのだ。

この話が本当だとしても、そもそも小峯が宅に反論あるいは謝罪するという当り前のことさえやればいいとの私の立場に変化なし。

人を使って違法行為をしたのは、道義的、法的な問題ではなく、戦略的に失敗だったと思うが、もし本当にやったのなら、堂々とこれを認めて罰金でも払い、払った足で小峯のうちに行き、郵便受けにクソしてやれ。

MONTHLY ESSAY INUMO-ARUKEBA by INUHIKO YOMOTA

犬も歩けば

四方田犬彦

連載第53回

VOLUME 53

バスチーユの日々

ILLUSTRATION BY;やまだ紫

三月三日

正午に青玄社の高橋和敬さんに、新しく出るエッセイ集の最終原稿を渡し、成田空港へ向かう。これから一ヶ月をパリですごすのだ。出発前の、いつもながらの過密な日程をこなし、最後の力をふり絞ってトランクを運ぶ。

飛行機のなかでは白川静『孔子伝』に読み耽ける。もう二十年前に出た書物だが、今までどうして読んでいなかったのだろうと思うくらいに眼を開かれる気持になる。孔子の出自がシャーマンに関わる、賤しい階級であったこと。彼の相似の分身ともいえる放浪の政治思想家が存在していて、晩年まで宿敵の間柄であったこと。読んでいるうちに、この亡命の哲学者と、年少にして夭折した弟子の顔回に深い共感を覚えるようになった。著者は荘子の思想は顔回の延長上にあり、老子はさらに少し後に生じた「敗者の国の思想」であると述べている。ぼくはこれまで老荘と儒家を単純な対立関係でのみ眺めてきたが、考えを改めることにした。

飛行機は翌四日朝にドゴール空港へ到着。バスチーユ近くのフォブール・サン・タントワーヌ二七五番地までタクシーを飛ばす。一昨年、水戸芸術館でソフィ・ルカシエフスキーが『サド侯爵夫人』を演出したとき音楽を担当していたアンヌ＝マリ・フィジャルのアパートを、彼女が田舎に閉じこもって作曲に専念している期間中、借りることにしたのだ。バスチーユといえば家具職人の町で、最近でも学生と機動隊が大きな衝突を繰り返したところだ。いわゆる下町で、同じセーヌ右岸にありながらもブルジョワは絶対に足を運ばないところだという。ぼくが借りることになったアパートも、エレヴェーターなどあるわけない。階段は穴だらけ、トイレのノブが毀されているといったふうで、住民の立ちのき拒否が役所では問題になっているとアンヌ＝マリは説明する。二十歳代の中頃からぼくは海外に行くたびに、ロンドンでも、NYでも、こういうスレスレのボロ・アパートを見つける独自の嗅感をもっていた。パリでもしかり、というわけだ。

赤でなりふりかまわずといった呈のアンヌ＝マリは、ぼくが月末にポーランドに行くと聞いて悦ぶ。わたしの両親は一九三八年、ヒトラーが侵攻する直前にあそこからパリに逃げてきたのよ。アパートのなかはリュートやアフリカンハープなど、雑多な楽器で足の踏み場もない。

夜、近くに住んでいる笈田勝弘（ヨシ）のところへ遊びに行く。ピーター・ブルック組の重鎮として五年近くパリに住むヨシさんのアパートは、アンヌ＝マリのところと正反対に整然としている。泉鏡花の話となる。ブルックが今度ドビュッシーの『ペリアスとメリザンド』を演出するそうですね、と尋ねると、うん、ぼくはあそこに出るオペラ歌手たちの演技指導を頼まれてるのだけれど、正直言ってピーターはドビュッシーにも、十九世紀のヨーロッパ音楽にも何の愛情も関心ももっていないよとあけすけにいわれる。実はその後に『妻を帽子と間違えた男』という、知覚障害の積極的可能性を主題とした作品を準備していて、その前に手元不如意なので、あの程度のコマーシャルなものを息つなぎにやっておこうという計画らしい。本当は『カルメン』だって、『テンペスト』だって、やりたくもなかったし、やる必然性もなかったのだろう。大作『マハーバーラタ』が持ち出しだったので、その埋め合わせとい意味もあったにちがいあるまい。

三月七日

谷崎潤一郎の翻訳者であるセシル坂井のアパートでパーティ。津島祐子に紹介される。ソルボンヌで日本文学を教えながら、『宇津保物語』の現代語訳をやっているという。フランス語と古文ばかりの毎日で、だから今の日本語を喋ることがほとんどなくてね、と彼女。話題は三人の共通の友人である中上健次のこととなる。入院して腎臓を一個摘出したというけれども、その後の病状はいったいどうなっているのだろうか。誰もがパリにいて正確な情報をもっていない。ふと思い出したようにその話になり、不安な表情になる。

ポンピドゥー・センターが今度刊行することになった思想誌第二期「トラヴェルス」の創刊号を手渡さ

れる。あなたの同時代人は？という特集号で、パリの荘々たるメンバーがアンケートに解答を寄せていた。ソルレスはいつもながらにバタイユ、セリーヌ、でも明日になったらニーチェと聖ヨハネ、明後日はサン・シモンとサドだね、と書いている。リヨタールはもう少し手がこんでいて、目的意識においてタキトゥスとマキャヴェリ。書くことの抵抗精神においてモンテーニュ、ディドロ、ジョイス。流浪においてモーゼ、パスカル、カント。可能性においてデデキント。限界性においてプーランクとハイゼンベルグ。絶対精神においてピエーロ、ベルグ、世阿弥。移行精神においてヴィトゲンシュタイン、サティ、デシャン。危機感において、ゴルギアス、カフカ、フロイト、といろいろ並べている。

ぼくはドイツの画家アンゼルム・キーファーの名を掲げた。中上は、「日本人にはいるわけない。いるとすれば韓国の金芝河だけだ」と書いている。

三月十三日

スイスに住んでいる海藤和が、ジュネーブから三時間の新幹線に乗ってやって来る。昨年の「カイエ・ドゥ・シネマ」読者投票で一位になった（批評家投票ではずっと下）、『ポンヌフの恋人』が、まだカルチェラタンの一館でだけやっているのを発見して、彼女を誘ってもう一度観に行く。パリの劇場で観てると、気恥しいくらいに御当地映画という感じがしてくる。

盲目寸前の令嬢が自暴自棄を起こして浮浪者に身を落とすのだが、父親が懸命に探しているのを知って元の世界に戻り、新しい手術でみごとに視力を回復する。要するにサイレントムーヴィにいかにもありがちなお伽ぎ話で、ぼくが今回出会ったフランス人たちは揃いも揃って、ちょっとねえときまりの悪そうな顔をしていた。にもかかわらず、夜の十二時半にフィルムを見終わると、五百米ほど川岸を歩いて現実のポンヌフまで行ってみたくなったり、東京にいるときには信じられないくらい甘ったるいことをしてしまうのは、やはりパリにいるせいだろうか。

パリの映画環境は、東京が相対的に上昇してきたせいもあって、十数年前にはじめて来たときほどには驚かなくなった。それでも先の同じ映画館で来週から陳凱歌（チェンカイク）の『絃の上の人生』がかかるという。楽しみだ。

三月十四日

知人の元TVディレクター、ピエール・オブリがフランク・ステラの娘と結婚して、十六区の高級住宅地の真中に画廊を開いた。いったい老人しか地下鉄に乗っていないこんな場所に開いてどうするのだろうと思うのだが、ともかく行ってみる。画家と作家の合作による稀覯本の展示をやっていて、中上健次の『青い朝顔』という掌編に、ジャン・クラルブーという画家が、砂絵のような不思議な絵を寄せている書物を見る。二十部限定のようだが、まだ一部しか製作されていないという。

三月十六日

ジュ・ドゥ・ポムでエルスウォノス・ケリーのヴェルニサージュに行く。一九四〇年代末にパリを訪れ、その最後の「よき日々」を味わったアメリカ人の抽象画家。陽気で、楽天的で、はじめて知った「芸術の都」への驚きが単純な画面によく現われている。ケリーははじめのうち、パリの街角の壁や舗道の奇妙な模様とか、コンクリートが崩れたのちに偶然に生じた鉄骨のぐねぐねした曲り具合などに関心をもち、写真に撮ったり、スケッチをしていた。いわば「トマソン」である。

パリは細く冷たい雨が途切れつつずっと降っている。

三月一九日

「人間の権力に対する抵抗は、記憶の忘却に対する抵抗である。」

ミラン・クンデラ

三月二〇日

ランダ・シャハル・サバグの『砂のスクリーン』という二年前のチュニジア映画を、わざわざ場所を探してまで観に行ったのは、マリア・シュナイダーが久々に主演したとあったからだ。『ラスト・タンゴ・イン・パリ』から十八年。彼女は痩せて、ひどく険し気な眼をした中年女になっていた。素気なく、人生にある種の断念とシニスムをもちながら、他人の眼には何を考えてるのかわからない女性という役柄は以前と同じだが、一時お熱をあげていた女優だけに複雑な気持になる。

三月二二日

パリで最初のパーティを開く。日本人、フランス人半々で十五人が来て、一時頃まで喋って帰った。みんないいワインをもってきたなあ。さすがビールとポテトチップスのNYのパーティとは違うなあ。

私の好きなハゲ

自分がハゲなので、他人のハゲも気になる。

テレビ観てても、あ、この人ヤバイな、とか、ムム、これはアヤシイ（カツラである）ぞ、とかついそういう風に見てしまったりする。

ハゲというのはやっぱりどうしても、滑稽が入ってしまう、どこかユーモラスになってしまうのがツライ。

どんなにかっこつけても、ハゲちゃびんと言われては。

だからハゲというのはどうしても「個性派」にならざるを得ない。そこがまたおかしかなしい。

だけど、イイハゲというのもいる。ボクの好きなハゲ。カッコイイなァと思うハゲの人。憧れのハゲ。羨望のハゲ。…そこまでは思わないか。

そういう人をランダムに挙げてみたい。

荒木経惟さん。とくに最近いい感じだ。ヒゲに白いものが増えてからいよいよ良くなった。もはや髪の毛が多い荒木さんなんて、考えられない。考えるとなんだか気持ち悪い。あのアタマだからこそ魅力があるように思える。

最近荒木さんはサングラスじゃなくて素通しの眼鏡をかけているけど、なんというか、枯れた色気があるように思う。

どんなにスケベな事言っていても、あの額と眼差しから純文学のようなものが漂い出てしまう。あのイカガワシサはどこへいってしまったんだろうって感じ。そこへ来て、猫のチロちゃんがパートナーでしょ。

モテないわけが無いって感じ。

ボクは個人的には荒木さんの最近のカラーの風景写真が好きです。

でも芸術家のハゲって、大抵カッコイイですね。

ピカソは極端だとして、マチスとモネなんてもう、そのハゲを含めた顔が芸術的だものね。マチスの事「あのハゲの絵描き」なんて言う人いませんよね。考えてみるとハゲだなぁ、っていう感じ。

いわゆる「お利口」という意味ではない「知性」みたいなものがあのハゲ頭のあたりにオーラの如く輝いている。

最近ではエイズで死んだキース・ヘリングがハゲ上がっていくとこだったけど、やっぱり昔の芸術家に比べたらまだまだ。ハゲっていう文字が浮かんじゃうもの、ポートレイトの写真なんか見ると。

憧れのハゲっていうのはみんなそうですわ。

何か必然性のようなものが感じられる。この人はハゲているから、この人であるのだ、という。ハゲにアイデンティティがある。

だからハゲを感じないんですね。

レーニンなんかもそういっちゃそうなんだけど、やはりどこか芸術点が低いように思う。

「社会主義リアリズム」みたいな、ちょっとわざと厳しくしてるような悲壮感というか、ある種のあざとさみたいなものを感じてしまう。戦争絵画とまではいかないけど、なにか絵画に意味性が付着しすぎているような。

レーニンのハゲには意味があるような気がしてどうも。

それに対してゴルバチョフ。この人のハゲは好きだ。この人もハゲでこそゴルビーたり得ている人だ。

でも絵画というよりイラストのような気がする。そこがまた現代にマッチしているんだけど。

あの額のシミも、わざとちょっと汚した、というか、ウマヘタのハゲみたいでいい。あのひっかかり具合がいい。あのシミが、ハゲを強調しているような、淡白にしているような。ゴルバチョフが髪の毛フサフサだったらヘンだと思う。妙に童顔で。坊っちゃん刈りにしたら気色悪いぞォ。眼がクリクリしてて。

あのサイドに残っている髪の毛の流れがいいんですね。すーっと後方に流れるような感じが。ボクはあぁならないな。

中山通産大臣、ルックスだけは日本のゴルバチョフと言われてるけど、残ってる髪がダメですね。どうしても三馬鹿大将の一人のような笑いが入ってる。どっかトンマなお父っつぁんの印象がぬぐえない。

ゴルビーはいいなぁ。

落語家ではやっぱり、故古今亭志ん生。この人のハゲもいいなぁ。

なんか気が短かそうな、怒るとコワそうなカンシャク玉のようなピリピリした緊張感があのダダッ子のような声、喋り方と実にうまくマッチしている。

志ん生が故林家三平みたいな髪だったら、というのは想像もできない。

これが林家小さん師匠だとハマリ過ぎ

というか、何かあの広い額に歴史と伝統の重みが出すぎているんではないでしょうか。

歌丸師匠もハゲを売りにしたりしていますが、これはもうなんというか、営業ハゲ。憧れの対象とはかけ離れた存在。仕事ハゲ。仕方の無いハゲ。

遠藤周作さんのハゲも近いですね。あれは自分の根の暗さ、ストイック過ぎる真面目さをハゲでなんとかしようとしている策略が感じられる。読者もそれで救われるんだからいい事をしているんだが。

別にハゲでいい事をしなくてもいいじゃないか。とボクなんかは思うが。

竹中直人。

髪を切ってハゲをさらしてよくなった。ボクと同じ考え方ですが。

要するにハゲって出すか隠すかでしょ。隠すのは隠すのでいいですよ、横の方の髪をグーッともってきたりして。ボクはその気持ちもわからないではないから、そういう一九分けなんかも否定はしない。

柳生博さんなんか、あれはあれで完結しているというか、よくできた髪型だと思いますよ。いいじゃないですか。几帳面な感じで。

ただ中曽根さんは何かやはり、どうにもこうにもスケベ根性があのヘアスタイルに出てしまった。金を持った中年男が必死でかっこつけているんだけど、その美意識のレベルがどうにもこうにも低い。絵画を見る時、絵よりも作者の名前と題名の札を見てる時間の方が長いような。

まぁ大体の日本の政治家のハゲはそうだけどね。

ゴルビーのような、必然性というか、ハゲていてこそ立ち昇る人間のスケールの大きさが出ている政治家、日本には全然いない。宮澤喜一さんなんてその代表。SFXに近いハゲですね。どうやって作ったんだろう、素材はなんだろうというような、金だけはかかってそうなハゲが多い。

関係ないけど毛沢東って毛沢山だったら面白かったな。あの額後退ハゲなのに、毛沢山。

俳優では、笠智衆さんのハゲ。これを果たしてハゲと呼んでもいいのか、という境地ですね。薄くなり方の美しさ。年齢を重ねる事の美しさを演じる笠さんならではと申せましょう。

ダーウィンというのもスゴイですね。霊鳥類的ハゲ。あの眼の窪み方とヒゲを加えて、何かキャラクターを固めちゃってるようなハゲだ。ゴリゴリのハゲ。どうにも動かしがたいハゲ。

固めてはいるけど、JAZZボーカルグループのマンハッタン・トランスファーのハゲの人はグループ全体のカラーを豊かにする意味ではいい味出してる。ギャグにはなってないけど、ユーモア味は加えている。あの感じはいいな。

面白いけど品のあるハゲ。いいですね。

JAZZではギタリストに、ジョー・パスっていうのとジム・ホールという二大名人ハゲがいる。ハゲのバーチュオーソ。

でも考えてみたらギタリストってハゲ多いですね。クラシックのナルシソ・イエペスでしょ。禁じられたハゲのフラメンコのパコ・デ・ルシアも結構ハゲだし、ディープ・パープルのリッチー・ブラックモアもハゲですね。今カツラだか植毛だかしたけど。

フュージョンではラリー・カールトンていうのが二枚目だっただけにハゲゆくのが見るに忍びがたかった、とまでは言わないが。エリック・ゲイルも、ハゲてなかったらガマゲエルなんて言われなかったんではないか。

日本ブルース界で今一番カッコイイギタリスト吾妻光生さんも物凄い落武者ハゲだもんなァ。

あとは誰がいたかなァ。

かっこいいハゲ。

松山千春だのさだまさしだの谷村新司なんてもう、なんていうかどうしょうもないもんなァ、ハゲという側面からのみ言わせてもらえば。かっこいいというのからは程遠い。運命を背おっちゃって耐えて耐えて自分の才能を磨いていこうという、芸能人としてイバラの道的なハゲ。と、言ったら言い過ぎですね。

ま、いずれにせよ、ハゲはやだね、年とるのはやだね、っつー事で。ボロクソ書いちゃった皆さんゴメンなさい。

でも世の中には良いハゲと良くはないハゲがあると思うんですやっぱり。だから良い方にコロビたいと思いますね、ハゲおよびハゲの予備軍の皆さん。

ひさうちみちお

構想5年!!

解説：呉智英

おしなべて優れた作品には、明々白々な正と明々白々な悪が対比的に描かれる場合でさへも、否定されるべき悪に存在感と説得力が感じられるものだ。この原則は『托卵』にも適用できる。(解説より)

定価1300円(本体1262円)

沈黙を破る話題作

青林堂

MONTHLY 4koma GARO VOLUME41
4コマGARO
●責任編集●シラトリチカオ 〒101 東京都千代田区神田神保町1－62 ☎03(3291)2495
第41回！
ボツの人 タ～クサン ごめりんこ♥
大阪Deep紀行 製作中！
ご希望の方は500円切手同封の上「白取大阪係」まで。4コマerでよんず切手をくれた方は切手なしで「希望」の旨連絡下さい。
「ではまた来月」の台詞も全く説得力を感じない今日この頃ではありますが皆様いかがお過ごしでしょうか。4月号ではとりあえず「お題」への解答を掲載しましたが、とりあえずも何もまた隔月になっちまったよもう。ガロもここんとこ絶好調で、部数も百万部を突破したし…て事は全然無いけどお陰様で新しい読者諸兄が増えてきております。当コーナーもいつの間にか約4年。ずっと続いてる人（札幌の今野氏、僕は君の味方だ）、去って行った人、戻ってきた人、そして新規参入してくれる人、とまあこれでイザ失業となっても全国津々浦々4コマer諸氏のところを厄介になりつつ諸国漫遊が出来るというモンだワハハハ。新人のために、作品は黒（筆記具は問わない）で葉書もしくは葉書大の紙を封書でもって次号の〆切は5月10日である。葉書の厚さが3センチを越し、消印も一月のがあったりして申し訳ない。毎月言い訳ばかりでもナンだから行こうと思うが。
■清水市の伴野真理子作
厚さ2ミリのドライ感
がびょうを踏んでしまったけど
ばんそこう はって ひと安心。
ん～ でも なんか
ばんそこの厚さが 気になる。
絵で選んだ。うまい。
■札幌市のモロ作
ポマードつけろよ
あっ ハナぢ
向かいのハゲ ミイナ
ホケン室 タチケテ
たかがハナぢぐらいで
よけいにハズカしいな～
4コマ目の右手に注目。
■神戸市の尺田由紀子作
うずまき 尺田由紀子
本編より、右側の絵にクルものがあった。
■桐生市のいしかは作
恋のカケヒキ
今日うちに泊まらない？
ヘンなことしないでよ～
こりゃ確かに「ヘンなこと」だわい。
■埼玉県のエクストリーム作
前えい4コマシリーズ その②
タイトル「ガロは心が広い」
作.宗近勝利 (ex.エクストリーム)
くわしかったらのせてみろ、どーせのせねーよ！ のったらうれしーよ！
うれしいか？
■川口市の赤玉作
マッチ工場の少年 赤玉
もう片方は今来るから…
太い方？細い方？
ハイ、細い方 来ましたよ
両方 たのむらか
太い方・細い方…あたしゃもちろん太い方♬
■古山啓一郎師範御作
ふれあい
カチッ
フー
そういや私がベースを弾く計画はどーなったの？
■座間市の大友克洋作
見るだけでかゆい漫画
シラトリ先生 だめだ 鉄のように固い！
ちょっと見せてください
切りとって成分を調べてみましょう
かゆいより気持ち悪いっす。
♥今月の溜ってる？♥
■横須賀市の鈴木サチエ作
17才高校生と封筒にあったのがすごく怖かったので…
何か悩みでも～？

■小平市の江頭直美作
ずっとこの顔、というのが良い。
カワタケ君 江頭直美
ボクのペットカワタケ君は、
ちんちん
バウ。
言う事をよくきく。
バウ。
とても愛想が良い。
おまけに寝ぞうも良い。
ウーッ
■茨城県の電整花電車作
君ってバックが好きなようね。ウフフ
スペルマとまんない病
どぼぼぼぼ
どぼどぼ
絶倫だよザーメンが多いんだ
■東村山市の古島あーも作
はっきり言ってタイトルで決定。
変なのいりみだれ by あーも
いちかはちゃんやっほー
君って時々変になるよな
変なのはあーの方だバーか
この女あぶねー一人で何か言ってるよ
■宮上朋子師範御作
今や4コマの「鬼太郎の親父」
暮らしのワンポイントアドバイス・補遺
なんか体がムズムズする…
今度は左手の爪に入りたい。
あ、トーマスが入ってたのか
ごそごそ
■世田谷区の直川隆久作
そこんとこ大事。
母さん、テレビで うちの同級生だった奴だよ
いや、友達ではないんだ
■札幌市の渡邊理香作
札幌ラーメンは逃げるのか、理香。
ラーメンたべたい
わらわら
■杉並区の坂ニワテル美とピエール瀧作
可哀相可哀相可哀相可哀相可哀相可哀相
ねこ 坂ニワテル美とピエール瀧
ミャー
みかん
あっ、死んでる。
■小金井市のスーパーマヨネーズふじた作
怖い、怖すぎる……
トレインじじいII 作/画 スーパーマヨネーズふじた
ハイ山田です
今からお礼に行くずら 逃げてもムダなり。
■大分市のいけうちしん作
面白いがガッツ、似てねえ～！ぞ。
あったかドラマ ガッツ石松君♡
なー野球しようぜ!
でも俺グローブもってないし…
こ、これは!
グ、グローブ
あ、あんたは!
ガッツ石松!
ありがとうガッツ…
でも…でもどうしようこれ?
えとぶん いけうちしん
■寝屋川市の紺野遊児作
すんごく危ないと思うの。
フランシーヌの生活 紺野遊児
フランシーヌは5年前生まれた子が少々いびつだった為に、毎月、宮内省から口止め料をもらって
日本人、ナル●トとの間に子供を二人作りました。しかし…
楽しく生活をしています。
■長野県のなめくじーノゆか作
うまい。リズムがいいぞなもし。
さっちん 画 なめ
私は夜の女 幸子
その前にアジ食おう
このえて公
あっち行こう
■佐倉市の板垣修業作
こ、これつづいてくれ。
秘密の扉（芳野と先生シリーズ）―板垣修業
アッアアッ イッチャウウー アアアアアアー
せ、先生…それは…
これが何だか解るか、芳野?
えっ…いやあ参ったなあ
ねえ…今度は先生の下でやって下さい
これはな、先生の部屋の鍵なのさ
つづく予定

■札幌市の井脇なおみこ作
究極のボディコンとゆう訳ですな。

■札幌市の飯田健司作
ピザ人がそれらしくて良い。

■いわき市の逆井公鉾作
堂々としたタイトルと4コマ目で掲載。

■佐賀市の遊童いずる作
ちなみに4コマ目のキスマークは本物だす。

■大宮市の国広謙二作
簡単でいいじゃないかあっ!

■いわき市の逆井公鉾作
今月の一等賞!今決まった。

■所沢市の砂野くらげ作
これ、いいかも知んない♥

■福岡県の名無しさん(ホント)
クマちゃんが可愛い。

■高崎市の清水延幸作
こーゆーの描いちゃ、駄目。

■神戸市のジョニ村へロ美作
常連にしか解らんネタではあるな。

■座間市の大友克洋作
林先生ご免なさい。…でも面白い…

■横浜市の市原保作
タイトル横の絵が素晴らしい。

※また来月…!?

読者サロン

《長井勝一氏の古稀と会長就任を祝う会》
写真館・二次会編

眠る津野裕子さん、森元暢之夫妻

北冬書房・高野慎三氏と近文絵さん

ガロ若手作家の星、左三本義治、右大越孝太郎各氏

ますむらひろし氏

三本義治氏

モデルのような山野一氏

望月勝広氏とヤマダリツコさん

土橋とし子、友沢ミミヨ、みぎわパンの三人娘

「勝ちゃん手ぬぐい」を手に

今月の有難ひ御言葉（みことば）
アンケート葉書編

【番外編】

まるでカタツムリの角のよーなVサインを見せる元青林堂の斎藤利史氏。

フツーのVサイン→

😊安彦さんは前回のおセンチな作品で芸風を広げたかと思いきや、今月はなんとつのだじろう氏の恐怖漫画のパロディをやってくれた。私以外にも「芸風が広いね」という評価があちこちからあった。
［三鷹市・24才・男］

😊何といっても今回は花輪氏の新作でしょう。期待以上の快作だと思います。「にくらしい教祖の幸福を祈る」少女の存在感はもの凄いものがある。
［市川市・26才・男］

■定期購読料金改正中のお知らせ■

平素小誌『月刊ガロ』をご愛読頂き、ありがとうございます。これまでサービス価格（一年￥５１５０、半年￥２７８０）にて定期購読を受け付けておりましたが、用紙代、製版代、印刷代ほか諸物価高騰の折、前記のような形態での定期購読の提供が難しくなって参りました。ですから、毎月お読みになりたい方は、お手数ながらお近くの書店さんに毎月取寄せて頂ければ助かります。お近くに書店が無い場合は、定期購読料金の方も現在改定中ですので、毎月その都度現在の定価＋送料81円を

①郵便振替…東京０－１３５４７７㈱青林堂までお振り込み頂く

②現金書留にて送金頂く

③小額切手（なるべく百円以下）

以上のいずれかの方法でご送金ください。年間、半年の定期購読契約の方は4月末日を持って停止させて頂きます。現在契約中の方は、契約切れまで発送致します。

大変勝手ながら、諸事情ご拝察の上、今後ともご愛読の程、お願い申し上げます。

新しい年間・半年間の定期購読料金は、本誌定価等と併せて改めて発表いたします。

㈱青林堂営業部・定期購読係

知久寿焼さんの描いた金魚のマンガが私の心をとらえてはなれない。「5分も10分も熱心に見てるけど、そんなにおもしろいのか」と家族に心配された。〔茨城県・27才・女〕

「だるまさんがころんだ」とても面白かったです。かわいくて残酷な昔ばなしのようです。〔いわき市・18才・男〕

大越さんが良かったです。喫茶店「安吾」なんてシビれるじゃないですか。〔名古屋市・19才・男〕

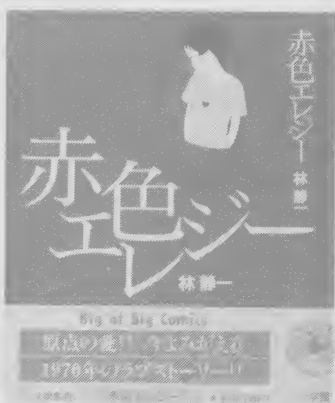
もっと普通に楽しめる面白い作品、記事を多く載せて欲しい。今はまだ、半分はよくわからずつまらないので損をした気になる。〔港区・28才・男〕

唐沢商会の新刊買いました。今回の小特集ではとりみき氏の一文に興味を持ちました。〔市川市・26才・男〕

根本敬関西紀行は、読みごたえがあり、かつ大変勉強になった。本当に頭が下がる思いだ。これからも自分の嗅覚に忠実に、さらなる探究を進めてもらいたい。〔四日市市・21才・男〕

入選作品の「覗き」は、すごい好きですが、意味がわからない、気になる。〔東大阪市・16才・女〕

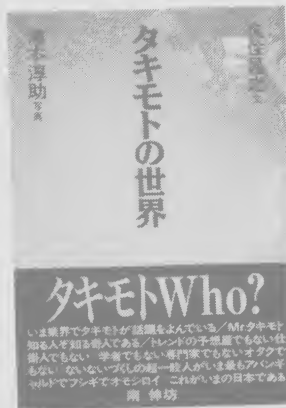
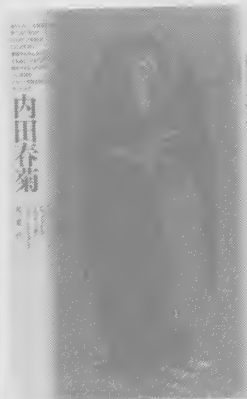
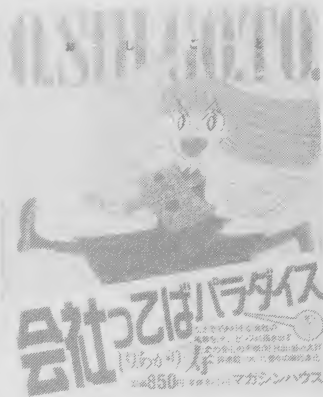
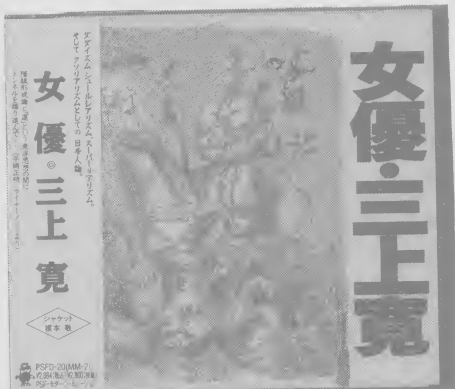
高杉弾先生は本当にすごい。始まった時は何だかわかりませんでしたが今でも何だかわかりません。やっぱり金星の人は考えることがちがうということなのでしょうか。すごいです。〔草加市・19才・男〕

♥**ヘロモン**が**ツオ**くて、お会いするたびに**クラッ**ときてしまう**林静一**氏の'70年の代表作「**赤色エレジー**」（小学館、定価千二百円）が出版されました。他に『花ちる町』や『赤とんぼ』等、短編六作も収録されており、**お買い得!!** また、画集「**ショート・カット**」（サンリオ刊）も好評で、先日、六本木で開かれた原画展でも、ホロ酔い加減で**ステキ**な笑みを見せて下さいました。

やまだ紫氏　林静一氏

♨立て続けに写真集が出版され超多忙な日々を送る、天才**荒木経惟**氏が、今度は「**写狂人日記・チロと写した'91年**」（扶桑社・定価二四〇〇円）を出されました。モノクロからやがてカラーへと移りゆく**'91年の全風景写真集!!** 自筆のあと書きも**グッ**ときます。出版記念の個展オープニングパーティーでは、カゼぎみにもかかわらず、いつものように**元気な声**でお話しされていました。

荒木経惟氏

♥筑摩書房から刊行中の、**やまだ紫先生の全集の3集目**が出ました。これは当社から刊行された「**しあわせつぶて**」に、「コミックばく」連載の「**金魚の殿様**」、単行本未収録作品も収録。**単行本約二冊分、三百頁を越える**この作品集が千七百円とはお得ですぞ。以前お伝えした、6月に新宿の書肆水族館で行われる「**やまだ紫展**」の詳細もいよいよ次号欄でお伝えします。また、ガロに掲載された詩人の**井坂洋子**との合作も秋にマガジンハウスからの刊行が決まり、ガロでも**特集**を行う予定です。お見逃しなく！

♪全国一千万のファンの皆様、お待たせいたしました。**内田春菊**氏の「**幻想の普通少女③**」が出ました（双葉社、定価七八〇円）。それにしても、内田さんは連載を始めるたびに、確実に力をつけて行く、という**凄い作家**です。この作品ももちろんのこと、まだ①②巻を読んでいない人は、ちゃんと①**巻から順に**読むように!!それから、当社でも内田春菊氏の**短編集**の発売を予定しています。楽しみです!!

❢大きな口をあけて笑うその顔がバツグンに**ナイス**な**久住昌之**氏の単行本をたて続けに二冊ほど紹介します。まずは、「**タキモトの世界**」（太田出版・定価千八百円）。これは写真家**滝本淳助**氏の世界をつくり上げてゆく、ひとりの人間をここまで面白く仕立て上げてしまう久住氏の**才能が光る一冊**です。お次は「**イケイケの人々**」（マガジンハウス・予価千三百円・5月25日発売）。今どきの若者観察学的社会考察マンガで、これも久住氏の**トクイ**とする分野!!画は名コンビの**泉晴紀**氏が担当。今年はこの他にも何冊か出版予定があり、もう**バッチリ**だぜ!!久住昌之氏ではあります。**楽しんで読もう**。

★サングラスがよく似合う、ナゾの**二枚目**サラリーマン漫画家**しりあがり寿**氏が、雑誌『Hanako』に連載していた会社漫画「**おしごと**」が単行本になりました（マガジンハウス・定価八五〇円）日本中の会社が、全部こんなに楽しい所だったらいいなあ～、と**タメ息**の出してしまう一冊!! 当社より先生予定の「**コイソモレ先生**」も凄い一冊となるから絶対**ヨロシク**。

✕関西方面でとんでもねえリポートをやらかして来た、ヒゲをそればあらまビックリの二枚目**根本敬氏**が**三上寛**のCD「**女優**」の**ジャケット**を描いています。レコード屋に並ぶ事を**ムシ**した凄いイラスト…。しかも中をあけるとさらにとんでもないイラストがのっています（本当はこちらをジャケットに使いたかったらしいが、丁寧に**拒否**されたらしい…）とゆう事で、ナントこのCDを**5名様にプレゼント**だ。希望の方は「**私の死にざま**」とゆうテーマのイラストを描いて応募すること。

⑪「啓蒙天国通信」という面白い同人誌があります。内容はマイナー劇団、芸人、漫画（ガロ系含む）の特集や、ちょっとここでは憚られるハードなレポートなど、非常に興味深い本です。希望者は〒143東京都大田区南馬込3—38—13第8木の実ハイツ107是恒降大様方　啓蒙天国通信まで、定額小為替で¥400に送料を切手で¥250を同封の上、お申し込み下さい。最新号は12号です。ちなみに白取は11号の特集の資料紹介のところの本は殆ど持ってましたが、無いものをスグ参考に揃えました。ありがとさんです。

☾天球儀文庫VOL3・**「銀星ロケット」(長野まゆみ著・鳩山郁子画・作品社刊定価980円)**が出版されました。復活祭をめぐる2人の少年の様子を描いています。なお、鳩山さんは次号で**21Pの作品を発表の予定**です。ご期待下さい。

◎今月の充電野郎!!
ゴジラ関係はひとまず一件落着した**みうらじゅん**氏は、今月は**充電**のため連載はお休みしました。現在みうら氏は生れ故郷京都の**ひえ〜〜〜山**で、体を土に埋め顔だけ出して他人に**踏まれる**とゆう**苦業**をしています。近所にお住いの方は、ぜし協力しよう(鉄ゲタ可)。来月はきっと**泣かせる**いい作品を描いて下さるでありましょう。

◎今月の写植くれっ!!
バンド「リス」でも大活躍の**友沢ミミヨ**氏は、忙しさのあまり、〆切を守れず「写植は自分ではりこんで渡しますから写植を下さい」と、苦しい**引きのばし作戦**に出た。が、「そうゆう事は、しなくて**ヨロシ**」というと、「**トホホ…**」といって、さらに一日遅れで描き上げました。**ごくろう様!!**

☆現在発売中の**「イラストレーション」**(玄光社刊)に、ガロでおなじみの**マディ上原　根本敬　ひさうちみちお、蛭子能収、しりあがり寿他各先生**のイラストが載っております。思わずガロ系漫画家の**誌面乗取り**かと思いましたが、そうだとしたら**危険な徴候**ですね、なんつってやら…。(パンチザウルス、03のご冥福をお祈りします)

♬井口真吾氏の**「Z-Chan」**も好評**〆切ギリギリ**連載中のパルコのフリーペーパー**「GOMES」**よりお知らせ。
ゴメス・アート・マーケット吉祥寺展
日時　**5月15日㈮〜24日㈰**　10:00〜20:00
場所　**吉祥寺パルコ8F　スタジオ**
入場無料・☎0422—41—7708
「だれでもアート作家になり、だれでもアート作品を買える」をモットーに「展覧会」とは違った「市場」的な元気良さを感じることができるイヴェント!!にかく行くべし。

♣**今月のナイスガイ**

業界の**さすらいのギャンブラー、杉作『ナイスガイ』J太郎先生**が、昨年のパチスロビデオが**4千本も売れたの**に続いて、デジパチのビデオを造ります。出演はJちゃんの他、**元横浜銀蝿の翔、新日本プロレスの獣神サンダーライガー、ご存知蛭子『すっかり芸能人』能収**などの豪華(?)メンバーに加え、ガロ編集部から**パチンコビンボー**白取が解説で特別出演します。パチスロビデオで**生き恥を晒した**白取が起死回生を計るこのビデオの続報は、**次号ギャンブル新聞拡大版**でレポート致しますのでお楽しみに。

!今月のボヨヨンCM

愛媛のオレンジジュースのCMで、**蛭子能収**氏と**ひさうちみちお**氏が共演しています。テレビをみていて、突然二人の姿が出てくると、とっても**ビックリ**するワケです、**コレ**が。しかも、**女子高生**を二人が**はさんだ**ような格好になっているので、**犯罪フィルム**かと思ってしまうワケです、**コレ**が…。

♥**今月の長井勝一**

今月号でも見開きでお伝えしましたが、『長井勝一氏の古希と会長就任を祝う会』は関係者各位のお陰を持ちまして盛大なものとなりました。この場を借りて御礼申し上げます。さてその宴もたけなわの頃、絶妙の司会で会場を盛り上げて下すった我らが高信太郎先生の発案で長井会長、内田春菊・近藤ようこ両先生から両頬に同時キス!をされてしまいました。永島慎二先生の三本〆で幕を下ろした後、某新聞社の取材を別室で受けたワガ会長の頬には、拭き忘れたキスマークがバッチリ残っていたのでした。ウッフン♥

★アルバイト募集!!

当社では、アルバイトを1名募集しています。

◎仕事内容/商品搬出搬入等の力仕事
◎時間・時給/委細面談
◎通勤一時間以内で週3日以上出勤可能な方。
◎年齢・性別不問・金髪可
◎とにかく丈夫で長持ち、体力に自信のある方を希望します。
◎応募方法・履歴書送付のこと。電話での問い合せは御遠慮願います。

残飯整理

♪そもそも、芸術(表現の自由)か猥褻か、という受け手の判断に委ねられるべき問題を、神でもないフツーの人間が高みに立って一方的に決めるという事自体が馬鹿馬鹿しい。そんな事は皆よく分かってる筈だ。それなのに、いわゆる「有害図書」の規制が強化された。ロリコン漫画やエロ漫画は嫌いだ、汚らしい、だから今回の規制は正しい、という白痴的意見もあるが、そう思っている人がすでに「個人の嗜好」を論拠にしている訳で、規制もその裏返しなのだ。しかも、今月号で南端さんが寄稿下さったように、規制は「コミック」にだけではないのである。「表現」が、一部の人間の「嗜好」で「これは読んでよし、これは不健全だから読んじゃダメ」と決められてしまう事の恐ろしさ。この一連の青少年健全育成条例の改正は、婦人団体やPTAが「性表現の過激なコミックを追放しよう」という声をあげ、自民党の代議士が中心となって押し切った。こいつらの善人ヅラ、覚えておくかんな。(白取)

♨今月インタビューで、ねこぢるさん宅へ伺ったところ、偶然にもその日は山野一氏の誕生日。というわけで仕事もソコソコに、ねこぢるさんの手料理で一同酒宴となったのだが、…その後どう時空間をワープしたものか、気が付くと私は小田急新宿駅のホームに寝ておったのでした。これも大魔導師ドーガ様の魔法であろうか…んなワケねえだろう、このヨッパライが!ねこぢるさん、山野さんごちそうさまでした♬ (周)

円この会社に出戻って早一年がすぎてしまった。思い起せば……グ〜〜〜。スピピィ〜〜〜。あっ、ねてしまった。ま、四百年も生きていりゃ疲れも出るよな。ああそうだ、苦業中のみうらはんはどうしているだろうか。そろそろほり出さないと来月に間に合わなくなっちゃうからな。ちょっと様子を見に行くとするか、ケケケ。それにしてもしりあがりさん遅いなあ、途中でイラン人にでも食べられたんじゃないだろうなあ。(原宿、テールームにて・手塚)

※「女の60分」に出演してる人達の歯はキタナイ。私も最近タバコの本数が増えているので、気をつけよう。 (高市)

◐今月から青林堂にバカボン図書館が設立されましたが、もうすぐ閉館されます。 (志村)

◉編集部より◉

作家の方に**ファンレターを出すにはどうすれば良いのか?**というご質問がよくまいります。その場合は、**「青林堂気付 ○○先生へ」**と明記して、**当社宛**郵送下されば開封せず、**そのまま**その先生にお渡しします。**どしどし**お送り下さい。

原稿の持ち込みは、必ず前日までにお電話下さい。(原稿拝見は午前中のみ受付けております)また、本を直接買いに来られる方は、営業時間内(AM9:30~PM5:30)にお願い致します。

(株)青林堂のご案内 事前にお電話で確認下さい。

〒101 東京都千代田区神田神保町1-62 ☎03(3291)9556/2495 FAX 03(3292)7368

月刊ガロ年間新人大賞 長井勝一賞 募集のお知らせ

月刊『ガロ』は、1964年の創刊以来、商業的には小さいメディアながらも、常に新しい才能を発掘し、新しい表現分野を開拓してきました。『ガロ』からデビューされた作家の方々は、単に漫画という一表現にとどまらず、様々な分野で活躍されている方も少なくありません。また『ガロ的』という言葉も、やはり単なる漫画という一ジャンルのものではない筈です。ですから、漫画作品として優れている事はもちろん、今後の幅広い活躍を予感させる、ユニークかつ独創性のある作品を募集します。

商業誌に未発表作品であれば、従来の「漫画」という様式に囚われない斬新な作品でも結構です。（ただし作品として完成されたもの）

今後『ガロ』への投稿作品はすべて長井勝一賞の選考対象となります。

※応募要領※

①原稿内枠サイズは、天地が273㎜・左右184㎜です。
②一色で、墨汁または黒インクを使用のこと。
③せりふ、ナレーションは鉛筆で入れること。
④うす墨は不可。中間色はスクリーントーンを使用してください。
⑤原稿用紙全体の大きさは問いませんが、断ち切りは15㎜以上延ばして下さい。
（従来のガロ投稿作品要領と同じです）

※応募規定※

※年齢・性別などは一切問いません。
※必ず原稿の最終頁の裏に、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して下さい。
※原稿返却希望の方は、切手貼付の上、返信用封筒を同封して下さい。

投稿宛先　〒101 東京都千代田区神田神保町1-62
（株）青林堂　長井勝一賞選考係

審査員長　長井勝一（青林堂会長）

他審査委員に漫画家・作家・イラストレーターなど多彩な方々をお迎えする予定です。（決定次第誌上で発表いたします）

※選考結果の発表は、月刊ガロ誌上で行う予定です。勝手ながら、お手紙やお電話でのお問い合わせは一切お断りさせて頂きます。

堂々の32冊

最新刊——五月連休明け発売予定

三日月国のレプス君

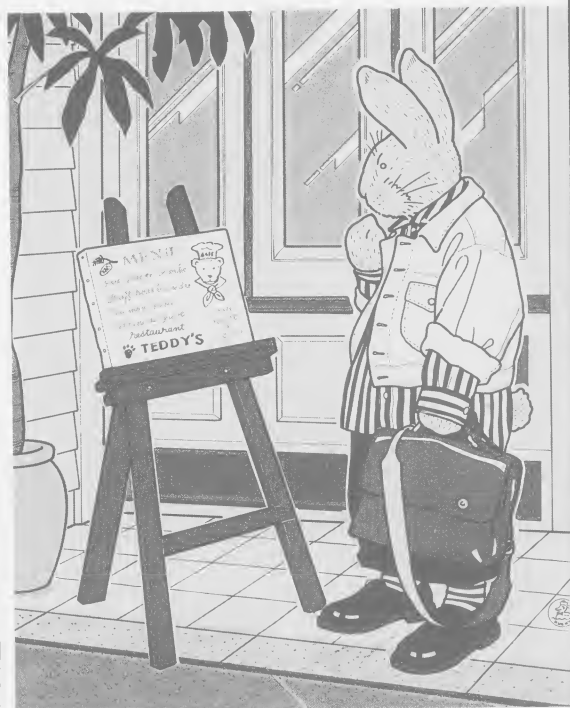
鴨沢祐仁

オールカラー ●予価1400円

レプス君は月のうさぎ。
お月様のちょうど三日月部分に住んでいる。
でもね、こんど地上へ降りて暮らしてみることにしたんだよ——。
レプス君とクシー君の愉快で不思議な日々。

既刊 クシー君の夜の散歩

★既刊

丸尾末広 パラノイア・スター
蛭子能収 サラリーマン危機一発
桜沢エリカ フールズ・パラダイス かわいいもの
森下裕美 恋人のいる街
内田春菊 四つのおねがい
いしかわじゅん 東京でサヨナラ
阿部ゆたか 100%探偵物語
山田詠美+双葉 ミス・ドール
川崎ゆきお レトロ帝国の逆襲
厦門潤 プロミスモニュメント
まついなつき みりん星通信
ひさうちみちお 人生の並木路
Q.B.B. 幼稚大先生タケマシ
小道迷子 鏡の国のバイク
泉昌之 イイ大人
たむらしげる 水晶狩り
岡崎京子 退屈が大好き バージン
平口広美 熱風ひばりヶ丘
樹村みのり 母親の娘たち
藤原カムイ 至福千年
森雅之 惑星物語
寺島令子 そこつの日々
やまだ紫 空におちる
根本敬 学ぶ
須藤真澄 天国島より
みうらじゅん ハニーに首ったけ
近藤ようこ 悲しき街角
吉田光彦 エンドレス・パズル

各810円〜1550円(税込)

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2 **河出書房新社** 電話03(3404)1201 振替東京0-10802 〒200

雑誌02511-6 定価440円(本体427円)